

# 講師派遣のご案内

北星学園大学社会福祉学部

地域社会貢献事業

2014



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部

# ご 挨拶

北星学園大学社会福祉学部長

横山 穰

本事業の前身である北星学園大学の社会福祉夏季セミナーは、1968年に始まり2011年に終了するまでのおよそ半世紀間、北海道の社会福祉領域で仕事をされている方々にとっては、「道しるべ」的な存在でありかつ貴重な情報源として、さらには交流の場として大きな役割を果たしてきたと自負しております。

とはいえ、この間日本の社会福祉を巡る情勢は大きく変貌を遂げてきました。社会福祉の現場は、誰にとっても安心して生活を送るための社会資源であり、そこでは実に多様な福祉サービスが提供されております。そうしたなかで、本学の社会福祉学部の多くの卒業生が、北海道の全域はもとより道外の社会福祉現場で活躍していることは、誠に嬉しい限りであり、実に心強く感じます。それだけ多くの方々に支えられて、福祉の仕事ができていくことに感謝しているところです。

時代の変化を反映して、社会福祉関係の情報源をはじめ、研修機会も拡大し多様化してきております。これまで北海道の社会福祉領域における人材を供給してきた大学として、本学の卒業生を含めた社会福祉関係者に対して、今後も福祉現場における有用な人材の養成を継続していくことは重要と考えます。それと同時に、社会福祉領域におけるオピニオン・リーダーとして、あるいは現場の皆様の要望にきめ細かく応えてゆく責任もあると考えております。

つきましては、本学の社会貢献事業の一環であり、地域における講演や研修に対する支援を具体的に担う事業として、本学の教員による講師派遣事業を企画し、実施することと致しました。本事業のねらいは、道内各地域における地方公共団体をはじめ、多くの社会福祉関連の事業や活動を展開している諸団体に対して、本学社会福祉学部の教員が自らの専門領域を活かして、講演やワークショップ、グループワーク等々の研修活動を支援させて頂くことにあります。本事業を必要に応じて積極的にご活用頂ければ誠に幸いに存じます。

# 講師派遣 申込方法

ご希望の講義をお選びいただき、別紙の申込書  
にご記入の上、FAXでお申し込み下さい。

申込先: **FAX(011)896-8311**

北星学園大学広報課  
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号  
TEL(011)891-2731(代表)

**募集期間:** 募集時期は、3期として、それぞれ抽選方式により決定します。  
それぞれの募集期間ごとに、一団体につき一件の申込とさせていただきます。

**【第1次募集期間】** 4月1日～4月10日必着（4月中旬に10件を抽選）

**【第2次募集期間】** 6月1日～6月10日必着（6月中旬に5件を抽選）

**【第3次募集期間】** 9月1日～9月10日必着（9月中旬に3件を抽選）

## 留意事項:

- ①抽選結果はFAXまたはメールにてお知らせいたします。
- ②抽選後、本学担当者が申込み先担当者の方と打合せながら、派遣教員の最終的な日程調整を行います。
- ③毎週水曜日午後は、本学会議等を原則優先させていただきます。また、職務の都合上ご希望に添えない場合もございますが、まずはお相談ください。
- ④派遣に係る費用は、原則北星学園大学が負担いたします。
- ⑤講師紹介の際には「北星学園大学社会福祉学部地域社会貢献事業」による派遣であることの告知をお願いします。
- ⑥講義・演習時間は90分を基本としています。
- ⑦2014年度は、18回の講師派遣を予定しています。
- ⑧第3次募集終了以降も18回に達していない場合に限り、申込方法等を大学ホームページでお知らせします。

# 1

## 社会福祉関係英語表現

ジェームズ E. アリソン (共通科目部門 教授)

社会福祉関係の英語表現を紹介していきます。ニュース放送、ウェブサイト、宣伝、書物(例えば聖書、小説、伝記)、音楽等に出てくる実例を用いながら様々な熟語、ことわざ等の背景、意味、そして使い方を学びます。

# 2

## 医療制度改革の方向 一日米比較

安部 雅仁 (福祉計画学科 教授)

わが国の医療制度は「国民皆保険」がベースとなっているが、近年では自助原則ないし市場原理が重視されている。この講義では、日本の医療制度改革の今後のあり方(方向)について、アメリカの民間システムを比較しながら考えます。

# 3

## 社会福祉入門 ―その基本的価値・理念を考える―

伊藤 新一郎 (福祉計画学科 准教授)

今日、社会福祉は私たちの社会生活においてなくてはならないものになっています。社会福祉は、その原理において「基本的人権の尊重」「自由」「平等」「連帯」など多様な価値規範を前提とする一方で、その実現程度は現実社会に反映され、まさに社会の今を映す鏡ともいえるでしょう。この講義では、社会福祉の入門として、その基本的価値・理念・考え方と日本社会の今についてお話しします。

# 4

## 社会福祉における自立支援の現状と課題

伊藤 新一郎 (福祉計画学科 准教授)

「自立支援」という言葉は、現在の社会福祉において頻繁に使用されており、支援の目的・目標として考えられています。そこでは、「自立＝経済的自立あるいは他人に迷惑をかけずに暮らす」という一般社会の理解とは異なる視点から「自立」を捉えており、いわば「社会福祉的自立」が志向されています。この講義では、今日の社会福祉における「自立支援」について現状を整理し、そこでの課題を考えていきます。

## 5

## 社会保障・社会福祉における公的責任 —大きな政府か小さな政府か—

伊藤 新一郎 (福祉計画学科 准教授)

社会保障・社会福祉の給付やサービスの提供においては、行政の役割をどのように画定するかが重要な政治的・政策的課題となります。いわば、公的責任の守備範囲をどう設定するかは、現実の社会保障・社会福祉の姿に大きな影響を与えています。日本ではこの四半世紀にわたり公的責任の縮小がより加速したと指摘されて久しいですが、この講義では社会保障・社会福祉における公的責任について現状を踏まえながら今後を考えていきます。

## 6

## 日本の福祉政策のこれから

### —欧州モデルかアメリカモデルか—

伊藤 新一郎 (福祉計画学科 准教授)

従来の日本の福祉政策は、企業(福祉)と家族(家族)の役割に期待する形で展開されてきました。現在では、企業と家族という福祉政策における「日本の基盤」は大きく変容し、21世紀における新しい福祉政策モデルを見出すことが課題となっています。この講義では、モデルとして欧州型とアメリカ型を手がかりに、それらを構成する価値観にも触れながら、日本の選択すべき未来とそのための条件について考えます。

## 7

## 電話相談について

今川 民雄 (福祉心理学科 教授)

現在では、多様な電話相談が実施されている。電話相談によって何を指すかに応じて、対応が異なるが、基本はまずかけ手の話を聞くことから始まります。電話等道具を用いる特殊性を踏まえ、電話相談全般について講義を行います。

## 8

## ワークショップ:傾聴の姿勢を身に着けるための研修

今川 民雄 (福祉心理学科 教授)

人の話をじっくりと聴くことは、簡単なようで案外難しいものです。また、聴くということは、知識を持っているだけではできません。実際に練習してみることが不可欠です。ロール・プレイなどを実施することによって、傾聴について学びます。

## 9

## 防災を求心力とした地域社会の現実的なネットワーク化の提案

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

昨今、地域社会では、高齢者等の孤立死、過疎化による衰退、担い手の高齢化が進んでいる。多くの者が、何とかしなければと感じているが、具体的にはアクションが少なく、地域社会を取り巻く環境は悪化の一途である。そんななか、地域社会にあるものを使って、仕掛けをつくって繋げるだけで、関係者が楽になり、取り組みが面白いと思える取り組みを提案したい。その際には、自然災害等に対する防災・減災を求心力として、地域住民や福祉専門職に働きかけ、すでにある仕組みを生かした現実的な地域社会のネットワーク化を提案したい。

## 10

## 地域の支援計画に基づいた地域福祉活動(小地域ネットワーク活動)等の地域福祉の仕掛けのつくり方(グループワーク)

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

ここでは、グループワークを通じて、その地域に応じた地域福祉の仕掛けづくりに取り組んでもらう。今日、介護保険における居宅サービス提供において、ケアマネジャーのケアプランがなければ、確実に実施することは難しい。しかし、地域福祉では、地域福祉計画や地域福祉実践計画はあっても、その理念の具体化につまづいている。そこで、ケアプランにならない、地域の支援計画を作成して、目的・ニーズ・目標・実施内容等を明確にした地域福祉の仕掛けをつくり、確実に仕掛けが動く方法について学んでもらう。

## 11

## 日本の貧困問題をどう克服するのか

木下 武徳 (福祉計画学科 教授)

21世紀に入って、日本社会は、フリーター、パラサイトシングル、派遣労働、格差社会、ホームレス、ワーキングプア、孤独死、無縁社会等、時代のキーワードはまさに貧困化の進展です。この貧困問題の現状を見たうえで、貧困問題克服の方策について考えていきます。

## 12

## 生活保護の現状と課題

木下 武徳 (福祉計画学科 教授)

格差社会が進むなか、貧困にある人々が増え、貧困対策の最後の手段である生活保護の利用者も増えてきている。しかし、生活保護に対する一般国民の意識は批判的な面も強く、生活保護基準の削減や就労指導の強化等が常に問題になっている。今後、生活保護をどのように改善していけばいいのか、現状を踏まえて考えていきます。

## 13

## わが国における社会福祉理論の歴史と展望

佐橋 克彦 (福祉計画学科 准教授)

戦前期の大河内流社会政策に始まり、わが国の社会福祉はどのように学問的に位置づけられてきたかについて、代表的な論者の社会福祉理論を紹介しつつ、現代におけるその意義を考察し、その展望を明らかにします。

## 14

## 地域包括ケアとまちづくり

杉岡 直人 (福祉計画学科 教授)

これからのまちづくりを考える上で、安心して暮らせる条件を整える取り組みが地域包括ケアシステムとして取り上げられています。この地域包括ケアの考え方とまちづくりの関係について参加者とともに考えます。とくにNPOの役割に注目して事例を紹介しながらアイデアを引き出せるようにします。

## 15

## 地産地消文化を推進するためのコミュニティレストラン

杉岡 直人 (福祉計画学科 教授)

地域に生活するメンバーが助け合い、支えあう仕組みを、食をつなぎ役として考える北海道らしい取り組みを、各地の事例を紹介しながら提案します。地域の活性化は、無理なく雇用を実現する仕組みにこだわらないと定着も持続も難しいといえます。

## 16

## 老化速度を遅らせるには...?

武田 秀勝 (共通科目部門 教授)

老化には、病的老化と生理的老化の二種類があります。そのうち、生理的老化は進むことがあっても止まることはありません。勿論、元に戻ることもありません。では、若さの維持とは老化速度をゆっくりさせること(遅延)です。「簡単に・・・」、「ラクラク・・・」、「すぐに・・・」などという健康法はありません。結構つらいものです。

## 17

## 子どもの肥満に潜むものとは？

武田 秀勝（共通科目部門 教授）

幼児期、および小学校低学年時の「肥満」はどのようにして発現して、なぜ、肥満ではいけないのでしょうか？

肥満発現の根拠と肥満の及ぼす健康への影響について考えてみましょう。

また、身体活動と脳の発達の関係についても併せて理解を深めましょう。子どもの肥満は、子ども自身の問題ではありません。幼少期の肥満は親の意識が大きく左右することも考えなくてはなりません。

## 18

## 発達障害(がい)の理解と支援

田実 潔（共通科目部門 教授）

発達障害(がい)は、加齢に伴ってその生きづらさも変化していきます。特に青年期以降になって生きづらさが浮き彫りになるケースもありますが、周囲の理解がとても助けになります。知っておいて頂きたい発達障害(がい)について解説します。

## 19

## 障害者の虐待防止と差別解消に向けて

田中 耕一郎（福祉臨床学科 教授）

2011年6月に「障害者虐待の防止、障害者の擁護者に対する支援等に関する法律」(通称『障害者虐待防止法』)が成立し、また、2013年6月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(通称『障害者差別解消法』)が成立しました。障害者の権利擁護の歴史と現状を踏まえながら、この「障害者の人権」に大きく関わる二つの法律の新たな可能性について考えてゆきたいと思います。

## 20

## 「障害者問題」とは何か

田中 耕一郎（福祉臨床学科 教授）

障害者の抱えるさまざまな「生きづらさ」を仮に「障害者問題」と呼ぶとするなら、この「障害者問題」はいったい誰によってどのようにつくられるものなのでしょうか。また、その問題の解決にあたっては、誰がどのような責任を担うべきなのでしょうか。<社会モデル>という考え方をもとに、この「障害者問題」について考えます。

21

## 障害者施設におけるリスクマネジメント

田中 耕一郎 (福祉臨床学科 教授)

障害者施設において求められるリスクマネジメントのあり方について考えます。リスクマネジメントとは何かという問いから始まり、障害者施設においてリスクマネジメントが求められてきた経緯を踏まえつつ、「利用者の尊厳ある生活」という理念に立脚したリスクマネジメントの基本的考え方と、その具体的な展開方法について考えたいと思います。

22

## 障害者運動は何を訴えてきたのか —日本とイギリスの障害者運動史から—

田中 耕一郎 (福祉臨床学科 教授)

障害者の人権を社会に訴え続けてきた障害者運動の歴史において、障害者たちがどのような文脈で、どのような抑圧や差別に抵抗し、そして、何を訴えてきたのか、などの点を振り返りながら、そこに社会や人間に関するどのような新しい価値や思想を見出すことができるのか、について考えたいと思います。

23

## 国連障害者権利条約とわが国の障害者差別禁止法

中川 純 (福祉計画学科 教授)

国連の障害者権利条約を批准するために、2013年までに内閣府が中心となって障害者差別禁止法を制定することが決まっている。障害者差別禁止法の重要なポイントは「合理的配慮」であるが、それがどのようなものであるか、どの程度まで市町村、使用者は義務を負わなければならないかについて、想定されうる範囲で検討、提示します。

24

## 地域社会調査の方法

中田 知生 (福祉計画学科 准教授)

ニーズ調査や特定の課題に対する地域診断のための調査など、特に、量的調査に関する方法について調査票の作成、調査対象者の選び方など細かいことについてもレクチャーいたします。テーマがすでに決定している組織に対しては、助言を含めたケースカンファレンスも可能です。

25

## 地域におけるまちづくり実践

中田 知生 (福祉計画学科 准教授)

地方における町内会・自治会を中心としたまちづくりについて、これまでのフィールド調査や学生を含めた地域交流などの経験をもとにその課題や方法について触れます。より実践的なものを求める地域に対しては助言を含めたケースカンファレンスも可能です。

26

## ソーシャルワーク実践理論の動向

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

多様な課題を抱えた人々へのソーシャルワーク実践を展開する際、「理論」や「モデル」は不可欠なものです。レジリエンスへの着目など最新動向も踏まえ、実践理論について考えていきます。

27

## 事例検討:ソーシャルワーク実践のポイントを振り返る

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

ソーシャルワーカーにとって、「事例」から学ぶことの意義は、いくら強調してもしすぎることはありません。提出いただいた「事例」を検討することを通して、ソーシャルワークにとって外すことができないポイントを振り返ります。

28

## 「利用者の自己決定」からソーシャルワークを考える

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

ソーシャルワーク実践展開において「利用者の自己決定」は、極めて重要な価値であり、方法概念でもあります。一方で、時にこの問題は、ソーシャルワーカーを悩ませます。「自己決定」をめぐる問題から、ソーシャルワークを改めて考えます。

29

## 事例検討:利用者・家族からの支援に対する要求や苦情

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

支援過程において、利用者・家族からの要求や苦情への対応に、頭を悩ませることは少なくありません。一方で、支援のあり方を再検討する重要な機会となることも間違いありません。提供していただいた事例をもとに、一緒に考えてみましょう。

30

## コンピュータ支援ツールを活用した生活の包括・統合的理解

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

利用者の「生活世界」を把握・理解できなければ、ソーシャルワーク実践は、忽ち袋小路に迷い込んでしまいます。生活の包括・統合的理解を手助けすることを目的に開発された支援ツールをご紹介します。

31

## 偏見と差別の問題について考える

横山 穰 (福祉臨床学科 教授)

日本社会における代表的な偏見・差別問題を通して、人権の重要性について考えていきます。主な偏見・差別問題としては、アイヌ差別、ハンセン病差別、水俣病差別等を予定しています。

# 講師派遣申込書

申込日 年 月 日

北星学園大学社会福祉学部長 殿

下記により社会福祉学部地域社会貢献事業の講師派遣を希望します。

事業所・団体等の名称	
代表者氏名	
住所	
所属課・係・担当者氏名	
TEL	FAX
E-mail	

希望講義番号	講師氏名							
講義名								
希望日時	月	日( )	時	分	～	時	分	まで
会場名	予定受講者数( 人 )							
住所								
事業内容を○で囲んで下さい。	講演会	研修会	ワークショップ	スキル学習会				
	ケースカンファレンス		その他 ( )					

使用機材： ご用意いただけるものを○で囲んでください。

- ・黒板      ・ホワイトボード      ・スクリーン      ・プロジェクター(スライド用)
- ・パワーポイント      ・ビデオ機器      ・DVD機器      ・P C

受講対象者・企画概要・付記事項等について

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

※大学記入欄

受 付:	年	月	日	(備考)	
学部長			課長	受付	

ミシン線から切り離してご使用ください。

案内図



Hokusei Gakuen University  
**北星学園大学**  
北星学園大学短期大学部

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号  
TEL011-891-2731 (代表)